

2024年8月6日

機動力重視のバンカー船“紬”竣工 旭タンカー、誠海事から用船し運航



“紬”

旭タンカーは新造バンカー船“紬”を用船・運航することを決めた。船主は誠海事、建造造船所は本瓦造船。東京湾内で主に内航船へのバンカリングに従事する。機動力を重視するため比較的小型な580 k l 積バンカーとし、さまざまな船へのバンカリングを可能とした。また、喫水を浅くすることで船員の労働時間短縮を実現する。将来的に需要増加が見込まれるバイオ燃料供給を想定した設備も搭載。4、5日に横浜港でお披露目会が開かれ、関係者が竣工を祝った。

“紬”は全長45m、全幅8.2m、喫水3.6mで、載貨重量トンには594トン。A重油、C重油、潤滑油の輸送に対応するのに加えバイオ燃料の供給も見据え、対応できるポンプを備えた。タンク容量は合計で580 k l。バンカー船は1000 k l 積が主力だが、救命艇が外付けされている客船などへのバンカリングが難しいケースがあるといい、そうした船にも供給できるよう小回りの利くサイズとした。そのため運河など喫水の浅い箇所も通行可能で、迂回せず最短ルートを航行することで船員の労働時間の短縮にもつながる。

新造船建造の経緯について、誠海事の松本誠社長は「LNGや水素といった新燃料の需要拡大が見込まれているが、一定程度は重油などの従来使用されている燃料のニーズが残ると判断した。今後もバンカー事業を継続していく決意を示すため当社初の新造船建造を決断した」と説明する。旭タンカーの市川武義執行役員は「誠海事とは数十年のお付き合いで、当社が東京

湾でバンカリング業務を行うに当たり欠かせない企業。EVタンカー“あさひ”の船舶管理もお願いしている。こうした長年の信頼関係から用船を決めた」と話す。今回の“紬”竣工により、旭タンカーのバンカー船隊は東京湾（平水船）が8隻、中京（平水船）が2隻、西日本（沿海）15隻の計25隻となる。

船体は和をイメージさせる紫色とし、船首に扇の絵柄を描いた。松本社長は「日本の玄関口である東京湾を航行するため、おもてなしを意識してデザインした」とその狙いを語る。船名は社内外から候補を公募した上で社員投票を行い命名した。



船首に扇の絵柄を描いた

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.